

日本で唯一の総合的なイベントの表彰制度

「第6回 日本イベント大賞」各賞決定

社団法人日本イベント産業振興協会

専務理事 : 竹下 浩司

東京都千代田区一番町13 一番町法眼坂ビル3F



社団法人日本イベント産業振興協会（所管：経済産業省、専務理事：竹下浩司、東京都千代田区）では、「第6回 日本イベント大賞」を実施し、このほどその各賞が決まりましたので、ここに発表いたします。

今回の日本イベント大賞は、昨年6月1日より作品の募集を開始し10月15日に締め切り、応募総数82点の中から厳正な審査を行った結果、『信濃川プロジェクト2009』（主催：信濃川プロジェクト実行委員会）が大賞に決定に致しました。その他の入賞作品につきましては、添付資料をご覧ください。



大賞『信濃川プロジェクト2009』

昨今は販促プロモーションにも費用対効果が高く斬新なイベント企画を求められています。今回もマーケティングデータやターゲットの心理洞察などを駆使し工夫を凝らした作品が多くありました。また、各地では文化発信や観光波及に効果的なものに加え、メッセージが人々の心に長く残るコンセプトualな作品も創作され、イベントは「経済効果」だけでなく主催者、制作者とそこに集う人々に直接の「幸福効果」ももたらすものであることが実感されました。

日本イベント大賞は、イベントの新しい市場の創出と優れた人材の発掘を目的に「新しいイベントやビジネスのインキュベータ」となることを理念としており、総合的なイベント表彰制度としては日本で唯一のものであり、イベント業界のさらなる飛躍を目指すものです。

本件に関するお問い合わせは、下記担当者までお願いいたします。



社団法人日本イベント産業振興協会

〒102-0082

東京都千代田区一番町 13 一番町法眼坂ビル 3F

TEL : 03-3238-7821 FAX:03-3238-7834

業務推進本部

日本イベント大賞担当 白枝 太田

<http://www.jace.or.jp/>

【添付資料1】

■「2010 第6回日本イベント大賞」【大賞】

イベント名称	信濃川プロジェクト 2009
主催者	信濃川プロジェクト 2009 実行委員会
制作者	信濃川プロジェクト 2009 実行委員会
イベント概要	中越地震 5 年目にあたり震災復興を地元資源の花火を使ってアピールするイベント。県境から新潟港までの信濃川 155km の間、10 市町村延べ 510 カ所の打ち上げ所を設置。市民と県外者含むボランティア総勢 1200 名が上流から下流に向け 1 秒ごとに打ち上げ、わずか 510 秒（8 分 30 秒）の花火に悲惨な震災の記憶と復興なった地域への思いを託した。
受賞理由	信濃川流域を活用した総延長 155km という「万里の長城」的スケール感の壮大なプロジェクトにもかかわらず、実行の担い手は一般市民や民間非営利団体(NPO)のメンバーであり、広域を連携させた組織力とやり遂げた実行力が称賛されるとともに、未来型地域イベントの構想、組織作り、実践手法のモデルとなる。シンプルな構成により鎮魂と復興のメッセージが胸に迫る作品である。

■「2010 第6回日本イベント大賞」【準大賞】

イベント名称	ハイチュウ ホラーハウス
主催者	森永製菓株式会社
制作者	株式会社博報堂
イベント概要	8 月 12 日「ハイチュウの日」にラフォーレ原宿にハイチュウがお化け屋敷をオープン。無事にくぐり抜けるとこのイベントのためだけに開発された誰も食べたことのない果汁 100%ハイチュウが全員に 1 粒ずつ提供された。最大 4 時間待ちの行列を作りながらも、4 日間で 3200 人以上が体験。限定商品の販売も行われた。
受賞理由	合理的な論理に基づいた企業イベントの系譜に、不条理とも思える意味性を越えたイベントの可能性に一石を投じた企画・実践が評価される。単純さによるインパクトと時代性を感じる率直に面白い作品。

■「2010 第6回日本イベント大賞」【グローバル賞（審査員特別表彰）】

イベント名称	Pika Pika AICHI Project
主催者	愛知県
制作者	株式会社電通名鉄コミュニケーションズ
イベント概要	上海万博日本政府館への参加イベント。ペンライトで空中に絵を描く手法で「愛知の各地に咲いた光の花から飛び立った種が、上海万博で花開く」ストーリーを展開。「300名を超える県民参加で制作した映像」と上海万博会場「各回約100名の万博来場者ワークショップ」により、愛知万博の理念継承、国際交流、愛知県のPRなどの成果をあげた。
受賞理由	国境を越えたグローバル・コミュニケーションの手法に、アートの言語の活用が感動的共感を引き起こすという実験的イベントの効果が見える。愛知万博の理念継承のメッセージ発信とともに、準備参加の県民と上海万博来場者とのリレーションを表現し、県内の景勝地や産業観光拠点のPRを巧みに盛り込んでいる。

■「2010 第6回日本イベント大賞」【クロスメディア賞（審査員特別表彰）】

イベント名称	楽天市場うまいもの大会
主催者	楽天株式会社
制作者	楽天株式会社
イベント概要	日本最大級のオンラインショッピングモール「楽天市場」に出店している人気グルメ店が、東武百貨店池袋店（リアル）の場に約50店舗が集結し、3月25～30日の6日間、「楽天市場うまいもの大会」を開催。売り上げが当初目標の1.8倍の1.25億円、来場者も20万人を超え、リアルとネットの融合を目指したイベントは大盛況に終えた。
受賞理由	ネット型プロモーションが売り場との融合によって、リアルの“買い場”を創造。バーチャルとリアルの融合をイベントがもたらすというトライアル。 また、“動かない”ユーザーを“動かす”ビジネスモデルとして新たなマーケティング展開の可能性を期待させる。

■「2010 第6回日本イベント大賞」入選

イベント名称	世界一おしゃれな行列
主催者	T's 株式会社
制作者	株式会社博報堂
イベント概要	ロンドン発人気アパレルブランド「トップショップ」旗艦店『ミラザ新宿店』のオープンイベント。オープン当日の店舗前にできた開店待ち行列（先着50名の女性）にロンドンから来たスタイリストが全身をコーディネートし、開店を待つファンによる“世界一おしゃれな行列”が完成。この様子がテレビやインターネットのニュースで取り上げられ、多くのおしゃれな女性ファンに支えられている「トップショップ」のブランドイメージの可視化に成功。
受賞理由	「長さ」を見る行列を商品の「質」を見せる広告塔として活用した発想が新しい。ツイッター等のメディアも駆使し、メディアプロモーションとの相乗効果がプロデュースできており、また「パーソナルショッパー」というビジネスモデルの発信もなしている。

イベント名称	チャリティー手話ライブ D' LIVE
主催者	株式会社コヤマドライビングスクール
制作者	株式会社コヤマドライビングスクール
イベント概要	健聴者も聴覚障がい者も楽しめる国内最大の手話ライブイベント。全国から13グループ30名の聴覚障がい者が出演。言葉で表せない思いを表現豊かな手話歌やスタイリッシュなダンスによって、手話を知らなかった若者にその素晴らしさと感動を届けた。主催のドライビングスクールに首都圏14大学の手話サークルボランティア50名が参加。売り上げの一部は「デフリンピック」日本選手団派遣費用や関連団体などに寄付された。
受賞理由	障がい者のパフォーマンスアートへの参加を加速するイベントとして今後にますます期待。主催者企業の社会貢献活動と、障がい者や若者にスマートにコンタクトするマーケティングとの両立を、スタイリッシュに明るく行っている点が秀逸。

イベント名称	第36回野毛大道芸
主催者	野毛地区街づくり会
制作者	野毛大道芸実行委員会

イベント概要	町おこしイベントとして始まった野毛大道芸は、町民の企画運営により 36 回目を迎えた。今や欧米でもその名を知られ国内外から多数のパフォーマーが集結し、全国から 40 万人の来場者を集めた。このイベントは静岡の「大道芸ワールドカップ」や東京都の「ヘブンアーティスト」など全国の大道芸の普及につながっている。
受賞理由	他の大道芸イベント創設への波及効果とパフォーマーのインキュベーション機能および 40 万人の動員力など、大道芸復権の地として重ねた歴史が大いに評価される。加えて地元住民の実行組織による継続実績と完成度の高さに敬意を表する。

イベント名称	コミュニティアートイベント「水と光、そして響き」
主催者	Water and Light project
制作者	Water and Light project
イベント概要	鳥取県大山の山麓にある植田正治写真美術館の外壁をスクリーンに数台のプロジェクターで映像を投影する屋外アートイベント。成長していく植物、色鮮やかに咲く花、泳ぐニシキゴイなどの映像と、チェロ、パーカッション、ブラスバンド、和太鼓の生演奏をコラボして幻想的な空間を創出した。
受賞理由	地元の誇りのアーティスト「植田正治」の 10 周忌を地域活性化の機会に活用。いたずらに規模を求めず、大山山麓という景観を生かしており、良質なイベントのモデルとなる。

イベント名称	東芝一般白熱電球製造中止式典
主催者	株式会社東芝 東芝ライテック株式会社
制作者	株式会社電通 株式会社電通テック
イベント概要	株式会社東芝および東芝ライテック株式会社による、CO2 排出量削減に貢献し「地球内企業」としての東芝グループの使命を果たすための一般白熱電球製造中止宣言の式典。実際に製造を行っている鹿沼工場の製造ラインの前で宣言し、忠実にラインをストップさせるというインパクトある式典となった。
受賞理由	日本で初めて白熱電球を作った会社がエコリーディングカンパニーとしてその生産を中止し先端の発光ダイオード (LED) に変換するというインパクトを、伝統的な「式典」で効果的かつスマートに発信している。社会への PR と共にインナー（社員）へのマインド効果も期待できるなど、企画のイノベーションがある。

イベント名称	アロハヨコハマ 2010
主催者	アロハヨコハマ実行委員会
制作者	株式会社ペッププランニング
イベント概要	9回目を迎えた「アロハヨコハマ」は日本最大級、世界でも有数のハワイアンフェスティバルとして 30 万人を動員し、今や港・横浜の夏の風物詩となっている。このイベントは、見知らぬ他者に対する寛容・敬愛と助け合いをモットーとする HAWAI' I の精神『ALOHA SPIRITS』をもとに横浜とハワイの歴史的つながりを広く伝えることを目指している。
受賞理由	30 万人規模の安定した集客力による経済波及効果を発揮し、9 年間の継続により横浜の風物詩として定着している。現代の都市住民の心を和らげる、“癒やし”の良質イベント。

【添付資料 2】

■日本イベント大賞とは

～設立の経緯と理念～

社団法人日本イベント産業振興協会では、平成 16 年に協会の 15 周年記念事業として日本イベント大賞を実施し、以降この事業を継続しています。日本イベント大賞は、日本で唯一の総合的なイベントの表彰制度です。

日本イベント大賞は、「新しいイベントやイベントによるビジネスのインキュベータとなること」を目指します。

したがって、日本イベント大賞は、企業や地域のイベントの区別にかかわらず新しい技術やコンテンツの開発に寄与したイベントや新しい仕組みや領域への取り組みにより優れた成果を収めたイベント、新しい事業やビジネスとして実を結んだイベント等を顕彰し、イベントの発展やイベントによる産業振興を図ることを目的とします。

～表彰～

表彰の種類は、大賞 1 本、準大賞 1 本、入選 8 本以内とします。

大賞、準大賞にはトロフィーおよび表彰状を、入選、佳作には表彰状を贈ります。一つの受賞作品につき、主催者と制作者（広告代理店、制作会社、個人など）を表彰します。なお、主催者と制作者が同一の場合は、表彰は一つとします。

なお、本年は入賞作品より 2 作品に対して審査員特別表彰として「グローバル賞」と「クロスメディア賞」を追加で設けました。

■「第 6 回日本イベント大賞」の全体経過について

～応募および審査について～

①応募作品数

「第 6 回日本イベント大賞」は 2009（平成 21）年 10 月 1 日から 2010（平成 22）年 9 月末日までに終了したイベントを対象とし、2010（平成 22）年 6 月 1 日から応募を開始、同年 10 月 15 日に締め切りました。応募数は 82 作品となりました。

②審査

審査は、第 1 次審査で 82 作品から 16 の作品に絞り、本年 2 月 8 日に最終審査を行いました。

③表彰式

表彰式は、2011（平成 23）年 3 月 11 日（金）に、「主婦会館プラザエフ」（東京・四ッ谷）にて開催致します。

■最終審査委員

澤田 裕二：株式会社 SD 代表取締役社長
中澤 圭介：株式会社宣伝会議 月刊「販促会議」編集長
宮崎 雅春：日本コンベンション事業協会 前理事
宮本 倫明：Landa Associates Ltd 代表
望月 照彦：多摩大学大学院 教授
(敬称略・50 音順)

■社団法人 日本イベント産業振興協会について

社団法人日本イベント産業振興協会(所管:経済産業省 専務理事:竹下浩司 東京都千代田区)は、平成元年に通商産業省(当時)の外郭団体として設立され、イベントの企画・制作・主催まで、イベントの幅広い分野にわたる企業や団体、教育機関で構成される日本で唯一のイベントに関するユニークな社団法人です。

近年イベントは、優れたコミュニケーション手段として、また体験や感動による人々の意識変化を生む契機として、また、新しいビジネスモデルや技術の実験の場として、改めてその機能と役割が見直されています。イベントをより効果的に役立てるために、当協会ではイベントやイベント産業に関する調査研究、各種のイベント情報の提供、人材育成、内外関係団体との交流、支援などの事業活動を行っています。また、平成21年10月からは「イベントマネジメントにおける持続可能性」の国際規格標準化(ISO)策定の国際審議団体となり、イベント業務の国際化に取り組み始めました。

以上